

8月13日(木) @NT 祈祷会 原稿 能城一郎

タイトル：一つに集める

聖書箇所：ヨハネ福音書 11章51、52節

Joh 11:51-52 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。

彼はその年の大祭司であったので、

イエスが国民のために死のうとしておられること、

また、ただ国民のためだけでなく、

散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、

預言したのである。

<10>章
◆羊と羊飼いの喩え
◆イエスは羊の門
◆イエスは善い羊飼い
◆イエスと父である神は一つ
◆神の子イエス
<11>章
◆ラザロの死
◆イエスは復活であり、命である
◆イエス、涙を流す
◆イエス、ラザロを生き返らせる
◆イエスに対する殺害の陰謀
◆イエス、エファイムに行く
<12>章
◆バタニアで香油を注がれる(マタ26*6-13、マコ14*3-9)
◆ラザロに対する陰謀
◆イエスのエルサレム入城(マタ21*1-11、マコ11*1-11)
◆一粒の麦——イエスの死の意味
◆十字架上の死の予告

ヨハネ福音書には、イエス様のことばがたくさん記されています。今日のテキストの前の10章、今、スライドが出ていると思いますが、10章7節の「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしは羊たちの門です。」、10章11節の「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。」、10章16節「わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。」・ ・ ・ と、読むだけで、自分は、神のこどもとして、見守られていることを、実感するのは、わたしだけでないと思います。

ヨハネ福音書の11章に入ると、「ラザロの死」、「イエス、涙を流す」・ ・ ・ そして、「ラザロを生き返らせる」とあり、そして、今日の聖書箇所のヨハネ福音書11章51、52節に至ります。

もう一度、今日のみことばを観てみましょう。

Joh 11:51-52 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。

彼はその年の大祭司であったので、

イエスが国民のために死のうとしておられること、
また、ただ国民のためだけでなく、
散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、
預言したのである。

51 節の冒頭に、「このことは、・・・」とあります。「このことは」を何を示しているのかは、43 節から 50 節を読むだけで分かります。

ヨハネ

11:43 そう言ってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」

11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

11:45 マリアのところに来ていて、イエスがなされたことを見たユダヤ人の多くが、イエスを信じた。

11:46 しかし、何人かはパリサイ人たちのところに行って、イエスがなされたことを伝えた。

11:47 祭司長たちとパリサイ人たちは最高法院を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの者が多くのしるしを行っているというのに。」

11:48 あの者をこのまま放っておけば、すべての人があの者を信じるようになる。

そうなると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も取り上げてしまうだろう。」

(＊これは、まったくの妄想、幻想である)

11:49-50 しかし、彼らのうちの一人で、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは何も分かっていない。一人の人が民に代わって死んで、国民全体が滅びないですむほうが、自分たちにとって得策だということを、考えてもいない。」

11:51 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。彼はその年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、

11:52 また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。

ヨハネの福音書は、イエス様のことばで満ちていますが、書き出しは、「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべて

のものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」という、散文、英語で言うと、narrative、ナレーションで始まります。今日のテキストは、ヨハネのナレーションの箇所にあたります。ヨハネ福音書は、妄想ではない、フェイクでもない、「まことのことわり」、「真理」というものを、当時の教会に集う人々のために、散文、ナレーションで、「真理の御霊」に導かれ語っています。「散文されど散文」これが、聖書を読む時に、わたしが座右の銘にしている言葉です。

11章48節の「最高法院」に集まった人々は、実際に生じることではない妄想、フェイクの呪縛の雲の中に閉じ込められていたとのです。「真理」を知る者は、青空に浮かぶ白い爽やかないクラウドに包まれています。しかし、あいまいな「妄想」「幻想」の鎖で縛られている者は、闇のドロドロとしたクラウドの中に閉じ込められている、と私は想像してしまいます。最高法院の大切なメンバーとして大祭司がいました。神は、その年の大祭司であったカヤパに、ヨハネのナレーションでは、大祭司カヤパの発言は「預言」と言われます。実際にその出来事が起こる事柄、それは「イエス様が十字架で死に復活させられる」ということです。その出来事が起こる「特別な年」の大祭司であるカヤパに、神は、「真理のことば」を語らせられるのです。

Joh 11:51-52 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。

彼はその年の大祭司であったので、

イエスが国民のために死のうとしておられること、

また、ただ国民のためだけでなく、

散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、

預言したのである。

今日は、「散らされている神の子らを一つに集める」からお話をします。

わたしたちは、今、この礼拝堂に「集まる」ことは出来ません。皆、離れ離れ、散り散り、になり、「特別な夏」を乗り切ろうとしています。いつ、「一堂に会して」集まる事が出来るのかは、分かりません。大切なのは、「一つになれるか」、信仰の兄弟姉妹と「一つになれるか」ということです。クリスチャンの一致は、福音書だけでなく、教会論を語る、エペソ書4章3節、「平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。」にも、教会に、「一つに集まる」時の大切さが書かれています。ヨハネの11章52節に、「散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられること」と、イエス様が十字架で死なれたことが記されています。クリスチャンの心を一つにするのは、「キリストの十字架」です。先ほど、ヨハネは、ナレーターとお話をしました。こ

のヨハネは、イエス様の十字架の場面を実際に目撃した人物です。その人物が、「ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。」と、ナレーションしているのです。このことばには、重み深みが確かにあります。

最後に、「散らされている」ということばを聖書から学んで見たいと思います。「散らす」の現来の意味は、「撒き散らす」、「追い散らす」、「無駄な消費をする」ということです¹。

ヨハネは、「散らされされた理由」については、書いていません。いくつかの聖書箇所を紹介しません。

Luk 15:13 それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものをまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して、財産を湯水のように使ってしまった。

Luk 16:1 イエスは弟子たちに対しても、次のように語られた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この管理人が主人の財産を無駄遣いしている、という訴えが主人にあった。

ルカ福音書は、経済管理法について、実際的な教えをたくさん語ります。「お金持ちとラザロ」(16章)、「ザアカイの4倍返し」(19章)が有名です。一度、無駄使いをしてしまったらそれを元に戻すには相当の労苦を覚悟しなければなりません。キリストの救いを得た者、私達は、神様から受けた恵みを無駄に使ってならないとの、メッセージを私は、この「特別な夏」受けました。皆さんはいかがでしょう。

Act 5:37 彼の後、住民登録の時に、ガリラヤ人のユダが立ち上がり、民をそそのかして反乱を起こしましたが、彼も滅び、彼に従った者たちもみな散らされてしまいました。

このテキストの「散らされてしまった」は、真理に基づくものではありません。「そそのかす者」のプロパガンダ(政治宣伝)、幻想、妄想を信じて、二度と元に戻れない出来事を表しています。そのリーダーは、「滅びた」とあります。お金は、努力すれば贖うことができます。しかし、「いのち」は、元に戻すことは絶対にできません。

¹ διασκορπίζω 散らす, 撒き散らす, 追い散らす; (金・財産を) 散らす. 散財する, 浪費する, 使い果す, 食いつぶす.

(c) 織田昭 電子版「新約聖書ギリシャ語小辞典」改訂第4版

Mat 26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。

このテキストの「散らされる」は、ヨハネたち、初代教会のクリスチャンが、体験した現実の迫害の事です。私は、殉教者の研究をした、いや、するように導かれて、イエス・キリストを信じました。殉教者は、プロパガンダのために全身全霊のエネルギーを消費したのではありません。「真理」を証しするために、全身全霊を献げたのです。

Joh 11:51-52 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。

彼はその年の大祭司であったので、

イエスが国民のために死のうとしておられること、

また、ただ国民のためだけでなく、

散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、
預言したのである。

今晚も、ご一緒に「真理の御霊」に導かれてお祈りを致しましょう。